

平成 29 年 3 月 18 日

稲田喜久郎

岩佐又兵衛について

略歴

天正 6 年(1587 年)―慶安 3 年 6 月 (1650 年) 73 歳で病歿する。

江戸時代初期の絵師。又兵衛は通称で、諱は勝以(かちもち) 幼名鶴千代。

摂津国河辺郡伊丹(現在の兵庫県伊丹市伊丹)の有岡城主荒木村重の子として生まれる。

誕生の翌年・天正 7 年(1579 年)、村重は織田信長の家臣であったが、信長に反逆を企て、失敗する(有岡城の戦い)。落城に際して荒木一族はほとんどが斬殺されるが、数え年 2 歳の又兵衛は乳母に救い出され、石山本願寺に保護される。

成人した又兵衛は母方の岩佐姓を名乗り、信長息子(次男)織田信雄に近習小姓役として仕えたという。文芸ら画業などの諸芸をもって主君に仕える御伽衆の存在だったと考えられる。信雄が改易後、浪人となった又兵衛は勝以と名乗り、京都で絵師として活動を始めたようである。

大阪の陣の直後の 40 歳のころ、福井藩主松平忠直に招かれて、あるいは後の岩佐家の菩提寺になる興宗寺第十世心願との出会いがきっかけで、北庄(現福井市)に移住する。忠直配流後、松平忠昌の代になっても同地に留まり、20 余年をこの地で過ごす。寛永 14 年(1637 年) 2 代将軍徳川秀忠の招き、あるいは大奥で地位のあった同族の荒木局の斡旋で、3 代将軍徳川家光の娘千代姫が尾張徳川家に嫁ぐ際の婚礼調度製作を命じられ、江戸に移り住む。20 年余り江戸で活躍した後、波乱に満ちた生涯を妻子のいる福井に戻ることなく、病死する。家は福井に残した長男岩佐勝重が継いだ。また、長谷川等伯の養子になった長谷川等哲も又兵衛の子といわれる。

画風と代表作

絵の師匠は、村重の家臣を父に持つ狩野内膳といわれている。俵屋宗達と並ぶ江戸初期を代表する大和絵師である。牧谿や梁楷風の水墨画や狩野派、海北派、土佐派など流派の絵を吸収し、独自の様式を作り上げた。「金谷屏風」には和漢の画題と画技が見事に融合しており、その成果を見ることができる。人物表現はたくましい肉体を持ち、バランスをかくほど極端な動きにデフォルメされている。相貌は豊かな頬と長い顎を持ち、「豊頬長頤(ほうぎょうちょうい)と形容される。中世の大和絵で高貴な身分の人物を表す表現だが、又兵衛はこれをデフォルメし独自のスタイルとしている。古典的な画材が多いが、劇的な夕

ッチとエネルギッシュな表現が特色で、浮世絵の源流といわれる。また、初期風俗画の先駆者の一人であった。

京都時代

「洛中洛外図屏風」(重要文化財) 六曲一双 舟木本 東京国立博物館 1614-15年
元は滋賀の舟木家に伝来したため、他の洛外洛中図と区別するため舟木本と呼ばれる。

福井時代

「豊国祭礼図屏風」(重要文化財) 徳川美術館
豊臣秀吉の七回忌に当たる、慶長9年(1604年)8月12日から18日にかけて盛大に行われた臨時大祭の光景を描いた作品。松平忠直が発注者と言われている。徳川一門の忠直が、豊臣氏の祭礼を描かせるのは矛盾しているように思われるが、忠直は幕府に反抗で後に配流された人物でもある。

旧金谷屏風 元和末から寛永初頃

元々、福井の豪商金谷家に伝わっていた紙本・六曲一双の押絵貼風(屏風の一扇一扇に一枚ずつ絵を貼ったもの)。松平直政が金谷家当主に下賜ものだという。

「三十六歌仙絵」36面 福岡市美術館

福井時代初期の作品と推定される。

「山中常盤物語絵巻」(重要文化財) MOA美術館 12巻

幅 31.4 cm × 総長 150m

「浄瑠璃物語絵巻」(重要文化財) MOA美術館 15巻

幅 31.4 cm × 総長 324m

これらの絵巻には室町時代の御伽草子を元にして描かれ、圧倒的な極彩色や群像表現は優れている。長大な絵巻群は複数の画工が関わったが、又兵衛が指導して仕上げられたと言われている。

江戸時代

「三十六歌仙図額」(重要文化財) 仙派東照宮

明治19年(1886年)同社の宮司が、額裏に「寛永十七年六月七日 絵師土佐派末流岩佐又兵衛尉勝以図」の銘があるのを発見したことにより、「勝以」と又兵衛が同一人物であることが確かになる。

「三十六歌仙図額」宮若市・若宮八幡宮蔵

60歳代の晩年の作品で、なぜ若宮八幡宮に伝来したかは不明。

「岩佐又兵衛自画像」(重要文化財) MOA美術館



江戸時代に単身赴任していたが、病をえたこともあり、家族の待つ福井へは帰れぬと悟って、自画像を送り届けたものという。気弱そうな伏し目に不精髭、だらしなくはだけた胸元、風采のあがらぬ男が描かれている。
右端の薙刀は武家であったことをほのめかす。

興宗寺

福井市松本3丁目。開基は行如である。行如は北条時政の孫(北条時房の子)である北条時村であったという。現在は第二十三世琢生が住職である。道場を開いてから720年余りの歴史があり、本願寺系統としてはかなりの古刹である。蓮如上人は興宗寺に文明3年7月15日に滞在して、御文章第一章を制作された。現在、興宗寺の納骨堂には御文章をしたためる蓮如上人の像が置かれていて、蓮如上人と深い関係を偲ばせている。

又兵衛 40 歳のころ、本願寺で執事をしていた興宗寺第十世心願が又兵衛の画才に目をとめ、福井藩の絵師として推挙した。妻子と共に越前に移り住む。60 歳になると幕府の招請で活躍した。73 歳で病死したが、遺言により興宗寺に納骨され、興宗寺が岩佐家の菩提寺となった。二代目勝重、三代目、陽運も興宗寺に納骨されている。岩佐家の墓は興宗寺境内地(現在の宝永小学校)にあった。空襲、福井地震後、小学校地内に残されたが、昭和 62 年(1987 年)に校舎改築の時に、現在の興宗寺境内に移された。墓の移転に際して、立ち会った興宗寺の住職が墓の中から「荒木」と墨書かれた越前焼きの骨壺が発見されて、又兵衛のものと考えられる。



興宗寺



岩佐又兵衛の墓



岩佐又兵衛の墓跡 宝永小学校正門横



興宗寺内にある蓮如上人像が置かれている納骨堂

